

松川高等学校ボランティア部



日常の平和

当たり前の日常に寄り添う活動

子ども食堂
地域ボランティア
東北支援
Etc...

おながすいたらだれでも
ご飯が 食べられる
友だちと一緒に勉強できる
おもいっきり遊べる
朝まで くっすり ねむれる

戦争のない平和

戦争のない世界平和に寄り添う活動

日本の負の歴史「満蒙開拓」
イラクの白血病の子ども達の支援
ウクライナの方々と交流
Etc...

戦争をしない爆弾を落とさない
寒や 町を 破壊しない

コロナ禍
できることを

工夫しながら
平和を繋ぐ

活動詳細

1, 子ども食堂

- 毎週水曜日に地域の「子ども食堂」でボランティア
- 「3.11追悼セレモニーin松川」の合同企画
- コロナ禍→子どもカフェ・社協と連携し食材集め
- 毎月家庭へ「食材配布(フードドライブ)」



子どもカフェでのフードドライブや交流
高森キャンドルナイト

2, 地域への様々なボランティア

- 障がい者・高齢者・地域スポーツ・イベントへのボランティア
- コロナ禍→地域に笑顔と元気をお届けする高森キャンドルナイトのお手伝い



湊小からのお礼のお手紙

3, 東北支援交流活動

1つ目:「花という笑顔を東北へ」(11年目)

石巻市湊小学校の避難所由来の「ペチュニア」の花の種を採種し、松川町で発芽させ、地域の方と育て、湊小学校・女川小中学校・復興住宅・福島県南相馬市などに「ペチュニアの花のお里がえり」として、被災された方の気持ちに寄り添いながら送付

コロナ禍→「震災後避難所の方々に勇気づけ、癒やしとなったペチュニアで疲れた心を癒やしたい!」と、松川町に「希望の花」として小中学生やと町民と一緒に植栽

2つ目:「くだもの里松川」の美味しい「りんごお届けする活動」(12年目)

農家さんから御協力頂いたりんごをジュースへ加工し、お届けしました

コロナ禍→りんご農家さんのお手伝い



コロナ禍、感染症対策を講じながらりんご農家さんへのボランティア ペチュニアの苗を松川町内に植栽

1, 負の歴史「満蒙開拓」の歴史を若い世代に繋ぐ活動 今年 戦後76年

- 「全国高等学校総合文化祭」の時、長野県阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」にて全国の高校生に、1930年代に全国最多の「満蒙開拓団」を送出した当該地域の高校生として日本の負の歴史の側面もつ「満蒙開拓」の史実をお伝えし、共有しあい、熱い論議を重ねた。
- 先輩の思いを引き継ぎ、全国初の「高校生展示ガイドボランティア」の学習・練習を毎月続けている
- 勉強会や講習会・講演会等に参加
- コロナ禍→オンラインでも勉強会に参加



満蒙開拓平和記念館(長野県阿智村)で高校生展示ガイド
戦後75年「鎮魂の夕べ」で犠牲者慰霊

2, 国際理解・国際協力活動

1つ目:ウクライナの方々との交流

3. 11追悼セレモニーでは、ウクライナ支援の募金活動

6月12日ウクライナの方々とヒマワリの種を植えるプロジェクトへの参加

これらの活動をまとめ、文化祭にて展示発表

2つ目:「イラクの白血病の子どもたち」への支援:11年目

- JIM-NET(日本イラク医療ネットワーク)主催の活動への参加
- コロナ禍→活動見合わせ



ボランティア
3 POINT

学ぶ(lean)

満蒙開拓の勉強
東日本大震災当時の様子
海外の文化

行動する(Act)

子ども食堂お手伝い
地域ボランティア
東北支援、交流

伝え(tell)
繋ぐ(connect)

満蒙開拓平和記念館ガイド
地域での活動発表
全国大会などへの参加

活動目標

- 「進んで人のお役に立つ活動をする」
- 高校生としてお役に立つために自らを高め研鑽を積む
- ひとり一人が「自分で気づき」「考えて」「行動」する
- 活動で関わらせていただく方々の「心に寄り添って」本当に相手が何を求めているのかを「リサーチ」双方向にとってクオリティーの高いボランティアをする
- ボランティア精神(ボランティアスピリッツ)を忘れず行動する

プロフィール

モットー:「平成から令和につなぐ平和のメッセンジャー」

部員:18名(3年生2名・2年生6名・1年生10名)
男子7名 女子11名

活動日: 放課後、 土日、子ども食堂など臨機応変に活動

雰囲気:和気藹々と「お互いを尊重」しており、日々着実に活動を行っています。



成果、学んだ事

- 関わっている多くの方が笑顔になってくださり「ありがとう」という言葉を頂き、活動に対して前向きになれた
- 「自己有用感」が芽生えた
- 知らなかった歴史を学べた
- 地域の方と関わることで自分から話しかけるきっかけになった
- 「私たちの当たり前が必ずしも皆の当たり前ではない」ことが分かった
- 様々な世代の方達と関わることで社会を学べる
- 自分で「今、何をすべきか」を考え自主的に判断し行動に移せるようになった
- 「何が正しいのか」真実を見つめる目を育てていただき「自ら学び続けること」の大切さを学んだ

今後の展望

コロナ禍で活動が制限される中、今私たちにできることを模索し、withコロナの精神で新しいボランティアのスタイルでお役に立てるような活動を続ける

活動テーマ・夢

2つの平和に寄り添う
誰もが自由に学び、当たり前の日常を送ること